

中华传统医学丛书

马建荣 著

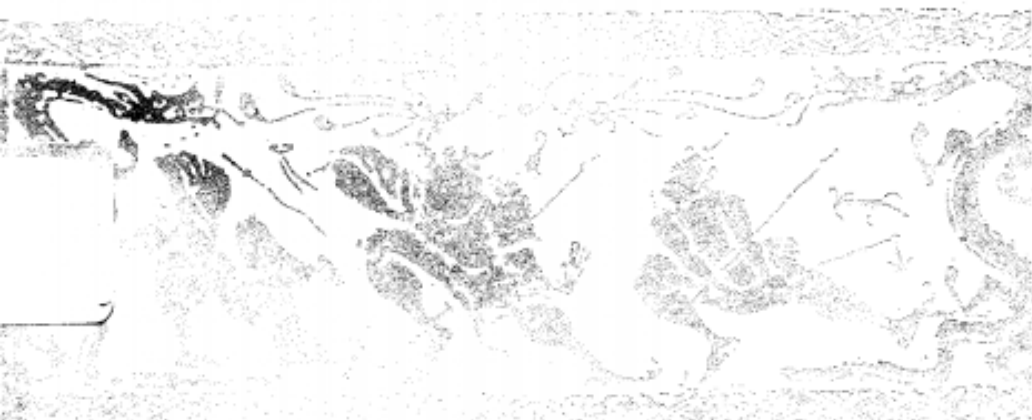
马建荣 整理

陕西科学技术出版社



中國醫用點穴學

醫用點穴學





数据加载失败，请稍后重试！



数据加载失败，请稍后重试！

(陕)新登字 002 号

中国医用点穴学

马秀棠 著

马建民 整理

陕西科学技术出版社出版发行

(西安北大街 131 号)

新华书店经销 西安向阳印刷厂印刷

850×1168 毫米 32 开本 15.25 印张 27.3 万字

1994 年 7 月第 1 版 1994 年 7 月第 1 次印刷

印数: 1 - 1000

ISBN 7-5369-1487-3/R · 394

定价: (平) 11.30 元

出版者的话

中国医药学源远流长,自神农开药学之先河,轩歧垂医学之统绪以来,她经历了数千年的发展历程,拥有数亿人次的临床实践经验,为中华民族的生息繁衍作出了巨大的贡献。在科学技术高度发展的今天,中国医药学在人民健康事业中仍然发挥着不可替代的重要作用。为了更好地发掘、整理这个宝库,弘扬民族文化,我社决定编辑出版“中华传统医学丛书”,这一丛书将立足陕西、面向全国,收集各个有广泛影响的传统学派和自成一体的新创学派的专著,希望能达到既便于读者阅读又利于文化积累之目的,也期望中国医药学能不断走向世界,不断完善和发展,为全人类的健康事业作出她应有的贡献。故此,我们殷切期望着海内外读者的批评帮助,使“中华传统医学丛书”越办越好。

陕西科学技术出版社医学编辑室

1990年10月

前 言

《中国医用点穴学》是《点穴疗法》(重编本)一书的继续和发展。在其原有的理论上,有了进一步的认识和提高;在实践过程中,手法上作了一些改进和完善;还增加了新的章节和病种。对点穴的手法及营、卫、气、血的论点,阐述了自己独具的见解。这些新的内容,将在临证上发挥更好的治疗作用。

点穴理论与手法相结合的临证应用,不仅使临证治疗效果显著,而且无痛苦,又无副作用;在普及推广点穴治病上,不仅易于学习,而且易于掌握,又易于实践。“点穴”不仅有病可以治病,而且,无病可以健身。如1978年12月8日,日本国首相大平正芳记问西安时,省、市领导安排让我为大平首相点穴的重要任务,其要求:

- (一) 保健、解除精神疲劳;
- (二) 治疗失眠。

当日晚上,即在大平首相临睡之前,给予点穴,需时仅20分钟,大平首相就进入睡乡。这种情况,是很明显的发挥了点穴保健与治疗的两种作用。

“点穴”不仅易于学以致用，而且用之收效较快较好。小儿建民随我学习点穴，很快就能临证治病，并且取得了显著成绩。同时，也有不少的读者，在自学一年多的时间内，居然治好了许多患者用药物未曾治愈的疾病。例如，山东济南市燕子山干休所的离休干部于维国，就是一位不大懂医学，而自学点穴治病的读者。由于他点穴治病效果显著，该干休所卫生所已邀请他每日应诊两小时。由此就足以证实，“点穴”这一治疗疾病的方法，在医疗、预防保健以及推广方面具有实用价值。

为了使广大读者，在学习点穴的过程中，能够熟练地应用于临证治疗，造福于人类，并能结合应用进行自我保健，以防病治病。所以，《中国医用点穴学》的内容，将系统地以点穴理论、治疗，以及预防保健为主。并且将治疗、保健方法，有机地融为一体，使之既是相互联系，又是相互为用的防治方法。

本书的完成，自己只是写出草稿，而全部整理工作，均由小儿建民所承担。因为建民随我学习、研究点穴治疗，已经十数年之久，从而发挥他的最大作用，又是给他一次很好的学习机会。

马秀棠

1989年于西安市红十字会医院家属院

目 录

上篇 基本理论

绪 论	(3)
一、点穴的定义	(4)
二、点穴的起源与发展	(5)
第一章 点穴的原理	(7)
第一节 阴阳认识	(7)
第二节 五行分辨	(9)
第三节 脏 腑	(10)
第四节 经 络	(10)
第五节 营、卫、气、血	(12)
一、人体的生命	(15)
二、人体的素质	(16)
第六节 点穴的临证作用	(17)
第二章 点穴的手法	(18)
第一节 平揉法	(20)
一、平揉法的方向	(21)
二、平揉圆圈的范围	(22)

三、平揉圓圈的大小度	(23)
四、平揉圓圈的快慢度	(24)
五、平揉圓圈的輕重度	(25)
六、連續性平揉與間歇性平揉及揉圈次數	(26)
七、平揉法的補瀉	(27)
八、向左和向右平揉與時針順逆揉轉對照	(30)
九、平揉法的作用	(38)
十、平揉法的应用	(39)
第二節 壓放法	(40)
一、壓放操作的要求	(40)
二、壓放的深淺與輕重度	(41)
三、壓放的快慢與距離度	(41)
四、壓放法的補瀉	(42)
五、壓放法的作用	(44)
六、壓放法的应用	(45)
第三節 皮膚點打法	(45)
一、點打的輕重、快慢標準	(46)
二、皮膚點打法的作用	(47)
三、皮膚點打法的应用	(48)
第四節 五行聯用法	(48)
一、井、榮、俞、經、合	(48)
二、五行聯用法的名稱	(52)
三、五行聯用法的操作次序	(52)
四、五行聯用法的具体操作和理論	(53)
五、五行聯用法的作用和应用	(61)
第五節 經絡循按法	(62)

一、经络循按法的操作内容	(62)
二、经络循按法的作用	(65)
三、经络循按法的应用	(66)
第六节 其他局部性、辅助性手法	(67)
一、头部推运法	(67)
二、头部压穴法	(68)
三、背部循压法	(69)
四、腹部振颤法	(70)
五、四肢摇运法	(70)
六、切摇法	(72)
七、舒筋法——按、弹、滚、动.....	(72)
八、散瘀法	(73)
九、止咳法	(73)
十、抑制咽喉疼痛法	(74)
十一、润肠法	(75)
十二、压颈动脉弹人迎法	(75)
十三、抚背法	(76)
十四、背部循推法	(76)
十五、井穴推切法	(77)
十六、压脊法	(77)
十七、腰椎间盘脱出牵引法	(78)
十八、切穴法	(79)
第三章 保健方法.....	(80)
第一节 头面部美容保健法.....	(80)
一、扣齿法	(81)
二、明目法	(81)

三、舌体运动法	(83)
四、鼓漱法	(85)
五、浴面法	(85)
六、鼻翼摩运法	(87)
七、耳聪保持法	(89)
八、摩擦风池穴	(90)
九、梳头法	(91)
第二节 颈、背、肩臂保健法	(92)
一、摩擦颈、背与尾闾	(92)
二、站步式头、颈仰俯法	(93)
三、运臂左顾右盼法	(93)
四、头项旋转单举手	(94)
五、屈肘伸肩扩背法	(95)
六、左右开弓扩胸法	(96)
七、肩臂运转法	(97)
第三节 其他保健法	(98)
一、击腹运动	(98)
二、腰膝运动	(99)
三、固肾法	(101)
第四节 自我保健点穴	(102)
第四章 点穴临证注意事项	(103)
第一节 医者的态度	(103)
第二节 点穴的准备工作	(104)
第三节 点穴时注意事项	(104)
第四节 点穴的取穴标准	(105)
第五章 十四经循行、病候、常用俞穴及配穴举例	(107)

第一节 手太阴肺经.....	(108)
一、肺经的循行径路	(108)
二、肺经的病候	(108)
三、肺经的常用俞穴	(108)
四、配穴举例	(112)
第二节 手阳明大肠经.....	(113)
一、大肠经的循行径路	(113)
二、大肠经的病候	(114)
三、大肠经的常用俞穴	(114)
四、配穴举例	(118)
第三节 足阳明胃经.....	(120)
一、胃经的循行径路	(120)
二、胃经的病候	(120)
三、胃经的常用俞穴	(120)
四、配穴举例	(129)
第四节 足太阴脾经.....	(130)
一、脾经的循行径路	(130)
二、脾经的病候	(130)
三、脾经的常用俞穴	(131)
四、配穴举例	(134)
第五节 手少阴心经.....	(135)
一、心经的循行径路	(135)
二、心经的病候	(135)
三、心经的常用俞穴	(135)
四、配穴举例	(139)
第六节 手太阳小肠经.....	(139)

一、小肠经的循行径路	(139)
二、小肠经的病候	(140)
三、小肠经的常用俞穴	(140)
四、配穴举例	(145)
第七节 足太阳膀胱经	(145)
一、膀胱经的循行径路	(145)
二、膀胱经的病候	(147)
三、膀胱经的常用俞穴	(147)
四、配穴举例	(157)
第八节 足少阴肾经	(158)
一、肾经的循行径路	(158)
二、肾经的病候	(158)
三、肾经的常用俞穴	(158)
四、配穴举例	(163)
第九节 手厥阴心包络经	(164)
一、心包络经的循行径路	(164)
二、心包络经的病候	(164)
三、心包络经的常用俞穴	(164)
四、配穴举例	(168)
第十节 手少阳三焦经	(168)
一、三焦经的循行径路	(168)
二、三焦经的病候	(169)
三、三焦经的常用俞穴	(169)
四、配穴举例	(173)
第十一节 足少阳胆经	(173)
一、胆经的循行径路	(173)

二、胆经的病候	(174)
三、胆经的常用俞穴	(174)
四、配穴举例	(182)
第十二节 足厥阴肝经	(183)
一、肝经的循行径路	(183)
二、肝经的病候	(184)
三、肝经的常用俞穴	(184)
四、配穴举例	(187)
第十三节 督脉	(188)
一、督脉的循行径路	(188)
二、督脉的病候	(188)
三、督脉的常用俞穴	(188)
四、配穴举例	(193)
第十四节 任脉	(193)
一、任脉的循行径路	(193)
二、任脉的病候	(194)
三、任脉的常用俞穴	(195)
四、配穴举例	(199)
第六章 常用的经外奇穴	(201)
第一节 头、面、颈项部	(201)
第二节 腰背、腹部	(203)
第三节 四肢部	(204)
第七章 点穴的处方配穴	(206)
第一节 局部性处方	(206)
第二节 全身性处方	(207)
第三节 局部与全身结合性处方	(209)

第四节	头部穴位的应用·····	(209)
第五节	胸腹部穴位的应用·····	(210)
第六节	背部穴位的应用·····	(211)
第七节	四肢穴位的应用·····	(212)
一、五俞穴择要举例	·····	(212)
二、原络交会穴	·····	(214)
三、八脉配穴	·····	(214)
第八节	命名穴位的应用·····	(214)
第八章	点穴手法的临证应用·····	(216)
第一节	临证点穴应区别标本缓急·····	(216)
第二节	临证手法的先后次序·····	(217)
第三节	临证手法的灵活性·····	(220)

下篇 临证治疗

第九章	内科疾病·····	(225)
第一节	感 冒·····	(225)
第二节	咳嗽(气管炎)·····	(230)
第三节	咳逆上气(支气管炎)·····	(235)
第四节	头 痛·····	(239)
第五节	脑震荡·····	(241)
第六节	眩 晕·····	(245)
第七节	痫 证·····	(248)
第八节	肝阳上亢(高血压)·····	(252)
第九节	半身不遂·····	(257)
第十节	痿证(两下肢瘫痪)·····	(264)
第十一节	失 眠·····	(267)

第十二节	心悸、怔忡	(273)
第十三节	血虚(贫血)	(278)
第十四节	呕 吐	(282)
第十五节	脾虚泄泻	(285)
第十六节	慢性腹泻(肠炎、肠功能紊乱)	(287)
第十七节	胃酸过多	(292)
第十八节	肝气犯胃(慢性胃炎)	(293)
第十九节	肝脾不和(胃、十二指肠溃疡)	(296)
第二十节	呃逆(膈肌痉挛)	(300)
第二十一节	肝气郁结(肝炎)	(302)
第二十二节	痢疾	(305)
第二十三节	便秘	(308)
第二十四节	遗精	(310)
第二十五节	阳痿	(312)
第二十六节	小便频数	(315)
第二十七节	脏躁(癔病)	(317)
第二十八节	失语	(319)
第二十九节	言语困难	(321)
第三十节	尿 床	(323)
第十章	妇科疾病	(326)
第一节	月经不调	(326)
第二节	痛 经	(330)
第三节	经 闭	(332)
第四节	崩 漏	(334)
第五节	恶露不绝	(337)
第六节	恶阻(妊娠呕吐)	(339)

第七节	先兆流产.....	(341)
第十一章	儿科疾病.....	(344)
第一节	小儿发热.....	(344)
第二节	吐 泻.....	(347)
第三节	小儿消化不良.....	(350)
第四节	小儿受惊.....	(352)
第五节	小儿多动症.....	(354)
第六节	痄腮(腮腺炎).....	(357)
第七节	顿咳(百日咳).....	(359)
第八节	小儿痿症(小儿麻痹).....	(361)
第九节	小儿摇头证.....	(367)
第十节	脑 瘫.....	(369)
第十二章	外科疾病.....	(373)
第一节	颈项疮瘡.....	(373)
第二节	脱 肛.....	(374)
第三节	疝气(狐疝).....	(376)
第四节	扭 伤.....	(378)
第五节	落 枕.....	(379)
第六节	瘰 气.....	(382)
第七节	注射引起的局部肿胀.....	(384)
第八节	肠痛(阑尾炎).....	(387)
第九节	蜂窝组织炎.....	(389)
第十三章	五官科疾病.....	(392)
第一节	耳 鸣.....	(392)
第二节	耳疳(慢性中耳炎).....	(394)
第三节	耳疮(外耳道炎).....	(395)